

# 財団法人日本自然保護協会 平成 20 (2008)年度 事業報告

(平成 21 年 6 月 17 日 評議員会同意、同日 理事会議決)

## . 財団法人の記録

### 1 . 役員等の異動

- (1) 就任 評議員 21 名 (平成 20 年 4 月 10 日)  
理事 18 名、監事 2 名 (平成 20 年 5 月 29 日)
- (2) 選任 理事長 田畑貞寿 (平成 20 年 5 月 30 日)  
専務理事 大澤雅彦 (平成 20 年 5 月 30 日)  
常勤理事 横山隆一 (平成 20 年 5 月 30 日)
- (3) 委嘱 参与 12 名 (平成 20 年 9 月 15 日)

### 2 . 会員数 (平成 21 年 3 月 31 日現在)

- (1) 普通会員 ( ) 内は昨年度との差異
- |         |                     |
|---------|---------------------|
| 個人会員    | 12,663 人 ( - 377 人) |
| ファミリー会員 | 2,907 人 ( - 111 人)  |
| ユース会員   | 123 人 ( - 60 人)     |
- (2) 団体会員 552 口 / 294 団体 ( - 58 口 / - 18 団体)
- (3) 賛助会員 81 口 / 45 法人 ( - 7 口 / + 3 法人)
- (4) 寄付サポーター 719 件 ( - 62 件)
- (5) アクションサポーター 4,836 件 ( - 408 件)
- 合 計 21,881 人・口

### 3 . 会議

#### (1) 理事会

- ・ 5 月 30 日 定例理事会 / (議決) 平成 19 年度事業報告・決算、役職理事の選出
- ・ 8 月 5 日 書面表決 / (議決) 参与の委嘱
- ・ 9 月 25 日 臨時理事会 / (議決) 公益法人改革に伴う新法人への移行について  
「公益財団法人」を選択することについて
- ・ 2 月 25 日 臨時理事会 / (議決) 平成 20 年度補正予算  
(議決) 公益法人移行にかかわる「最初の評議員選任方法」
- ・ 3 月 17 日 定例理事会 / (議決) 平成 21 年度事業計画・予算  
(議決) 公益法人移行にかかわる定款変更 (理事・評議員の定員)

#### (2) 評議員会

- ・ 4 月 25 日 定例評議員会 / (同意) 平成 19 年度事業報告・決算  
(議決) 新理事・監事候補者の選任
- ・ 5 月 14 日 書面表決 / (議決) 監事の選任

- ・ 9月25日 臨時評議員会 / (同意) 公益法人改革に伴う新法人への移行について  
「公益財団法人」を選択することについて
- ・ 2月25日 臨時評議員会 / (同意) 平成20年度補正予算
- ・ 3月17日 定例評議員会 / (同意) 平成21年度事業計画・予算  
(同意) 公益法人移行にかかわる定款変更(理事・評議員の定員)

### (3) 委員会等

- ・ AKAYA プロジェクト調整会議(8/1、2/28)
- ・ AKAYA プロジェクト企画運営会議(9/29、3/19)
- ・ IUCN 日本委員会総会(4/15、3/30)
- ・ IUCN 日本委員会運営委員会(11/27、1/20)
- ・ ふれあい調査委員会(4/2、3/31)
- ・ プロ・ナトゥーラ・ファンド助成運営・審査委員会(4/23、8/8、9/11)
- ・ 自然観察指導員講習会講師会議(1/31-2/1)

## 4. 意見書等の公表

### (1) 意見書・要望書等(代表者名で提出)

各事業で取り組んでいる問題に対し、2件の意見・提言を提出した。(13頁・別表1)

### (2) 声明・パブリックコメント等(主に業務担当責任者名で提出)

各事業で取り組んでいる問題に対し、6件の声明・パブリックコメント等を提出した。(13頁・別表2)

## 5. 委員の派遣

各事業で取り組んでいる問題・テーマに関わる28件の委員会等に役職員を派遣し、施策の転換や事業の見直しの検討に参画した。(13頁・別表3)

## 6. 印刷物の発行

### (1) 会報『自然保護』

- ・ 年6回 / 奇数月発行(第503号～第508号)、44頁 / 各号約18,000部

### (2) パンフレット等

- ・ AKAYA プロジェクト総合パンフレット(7月、赤谷プロジェクト地域協議会・関東森林管理局と共同、7,500部)
- ・ NACS-J 自然保護寄付パンフレット(7月・12月、計60,000部)
- ・ 冊子「植物群落からみた海岸白書～市民参加の海岸植物群落調査 全国調査結果報告書2004-2007」(10月、2,000部)

- ・入会案内パンフレット・個人会員（52,500部）
- ・入会案内パンフレット・賛助会員（1,000部）
- ・「NACS-J 自然しらべ 2008 夏休み カマキリをさがせ！」調査マニュアル  
(7月、50,000部)
- ・「NACS-J 自然しらべ 2008 夏休み カマキリをさがせ！」ポスター（7月、1,000部）
- ・「NACS-J 自然しらべ 2008 夏休み カマキリをさがせ！」結果レポート  
(12月、19,000部)

## ・事業報告書

平成 20 年度として以下の業務を実施した。

### 1. 保護プロジェクト事業

#### (1)AKAYA プロジェクト

林野庁関東森林管理局と締結した「『三国山地ノ赤谷川・生物多様性復元計画』推進のための協定書」(平成 16 年 3 月 30 日～平成 23 年 3 月 31 日)に沿い、生物多様性保全と持続的な地域社会づくりの実践モデル構築のため、各プログラムを実施した。

#### 総合事務局業務

「企画運営会議」、「調整会議」等の意思決定会合の運営、プロジェクト事業に係る 7 つのワーキンググループの運営・参画を通じて、関係団体の協働による事業進行の枠組み構築を進展させた。また、執筆・講演・研修・現地視察・各種取材協力・催事協力等への対応や専用 web サイトの運営、NACS-J 会員ツアーの実施等を通じ、モデルプロジェクトとしての事例提供・周知、参画主体の開拓を図った。

#### 「赤谷の森」生物多様性復元研究(林野庁関東森林管理局委託/自然保護助成金助成)

平成 16 年度にまとめた「自然環境モニタリング基本方針」に則り、植生管理・猛禽類・ほ乳類等のモニタリング調査と自然林修復手法の研究を行うとともに、地理情報システム上で成果を分析した。成果を国有林の地域管理経営計画に反映させるための検討に着手した。

茂倉沢で実施される溪流環境の連続性を修復するための治山事業の実施前調査として、溪畔林や水生昆虫の基礎調査を実施するとともに、茂倉沢治山事業施設整備計画調査検討委員会に出席し、具体的工法に提言を行った。

#### 旧三国街道フットパス網計画(アクセンチュア(株)助成)

赤谷プロジェクト地域協議会と協働し、旧三国街道をフットパス網として活用するための情報収集と現地調査を進めた。

#### 「赤谷の森」環境教育拠点形成等(運営基盤整備積立金活用)

環境教育ワーキンググループを組織し、「いきもの村」「小出俣エリア」において、教材配置計画の立案と配置の実施を進めた。

月例の調査研究・環境管理実習「赤谷の日」(11 回開催)を中心に、苗畑跡地「いきもの村」を、教育研修活動の拠点にするための整備を進めた。

インターネット上に自然誌情報を蓄積するシステムを構築した。

「環境教育関東ミーティング 2008AKAYA」の開催に協力した。

#### (2)尾瀬プロジェクト

#### 委員会の参画と保全施策への提言

尾瀬国立公園協議会に参画し、運営への協力と委員参画による交渉・協議を継続した。至仏山保全対策会議の中では、「至仏山保全基本計画」をもとに、生態系の保全を基本とした利用のあり方を提言し、次年度以降、登山道の一部迂回を含めた抜本的対策へ向けた調

査を尾瀬保護財団を事務局に開始することとなった。

### 国立公園編入地域の生態的評価等の企画・実施

尾瀬国立公園新規編入区域において「会津駒ヶ岳・田代山・帝釈山地域景観保全管理方針検討会」に委員参画し、既存公園施設の生態的評価等を提案した。環境省が既存登山道の是非も含めた検討をおこない、モニタリング調査を実施しながら利用と保全の調整を図るための状況を整えた。

### (3)小笠原プロジェクト

#### 小笠原諸島父島・ジオエコタイプ（地生態学）区分解析（自然保護助成金助成）

森林生態系保護地域の自然修復事業を計画的にすすめるため、保護地域管理委員会のアドバイザー会議に参画し、保全管理委員会への提言・交渉を継続した。また、NACS-J 独自に、父島を対象に地形・地質・土壌・水文といった基盤環境と植生との繋がりから環境を区分するジオエコタイプ区分解析を行ない、希少種が集中する重要区域と同等のポテンシャルを有する環境の抽出をおこなった。

#### 小笠原南島モニタリング調査（東京都委託）

南島のモニタリング調査を継続実施し、利用による自然環境への影響についての検証をおこなった。その結果をもとに地元説明会を開催し、南島の自主ルールの課題について、問題が利用時間帯の分散化にあることを関係者間で共有し、今後、提言していくための状況を整えた。

### (4)保護活動プロジェクト

#### 辺野古・大浦湾のサンゴ礁・内湾性生態系保全活動

海草藻場モニタリング調査「ジャングサウォッチ」地元調査グループによる実施を支援・協力し、普天間飛行場移設の環境影響評価の進捗を視野に、辺野古・大浦湾の生態系の保全、事業の見直しを求めた。大浦湾のアオサンゴ群集の現地合同調査を行い速報レポートをまとめ、関係省庁や国会・関係学会などへ示し、この海域への社会的な関心を高めた。第4回IUCN自然保護会議（バルセロナ）において、勧告「2010年生物多様性年におけるジュゴン保護の推進」を他自然保護団体と提案し、決議された。

#### 適切な評価のしくみ・アセス法見直しの提言

各地で問題となっている風力発電計画の状況把握をもとに、手続きの改善を含め計画のあり方等を整理し、新聞・雑誌のメディアを通じて、社会へ問題提議を行った。環境影響評価法施行10年が経過し、見直しの研究会（環境省）において、自然保護団体として各地で改善されない開発問題をもとに根本的な課題を解説し、対象事業の拡大などの提言を行った。

#### 地域保護問題解決支援対処 / 制度施策の監視・提言

地域 NGO からの要請にもとづく現地視察、政府機関等の施策検討会への参画、取材対応・催事協力等により、保護地域の拡充・新設自然保護施策の実行に向けての働きかけや、各地の保護問題の状況把握および交渉活動を行った（13～14頁・別表1、2、3、4）。市民提案に端を発した「生物多様性基本法」が制定し、「自然公園法」の改正にむけて、「国立公園が生物多様性の屋台骨」となるための提言活動を行った。

その他、行政研修・大学講義等への役職員の派遣（JICA、林野庁、水資源機構他）各方面へ自然保護の解説を行った。

#### ライブラリー情報整理・活用

図書等各種資料の登録・分類・整理を行い、「自然保護ライブラリー」のデータベースおよび検索システムの整備を進めた。

## 2. 保全研究事業

### (1) 保護系プログラム

#### 海草藻場・干潟生態系保全

##### ・ 沖縄島泡瀬干潟保全

海草藻場のモニタリング調査を実施した。調査結果に基づき、埋立工事の着手後に干潟の自然環境が変化している実態を指摘。埋立事業の環境監視委員会参画等を通じて埋立事業を見直し、泡瀬干潟の生物多様性保全を図るよう提言した。

また泡瀬干潟を守る連絡会等の市民団体や WWF ジャパンと連携し、埋立計画の見直しと工事の中断を求めて国会にも働きかけを行なった。

#### 国際

##### ・ IUCN 日本委員会の運営

IUCN（国際自然保護連合）の国内会員 23 団体からなる IUCN 日本委員会の事務局として、会議・セミナー・ホームページ等の運営、レッドリストの普及冊子や生物多様性条約の普及冊子の製作、寄付支援の呼びかけ等を行った。

##### ・ 2010 年生物多様性条約締約国会議に向けた取り組み

「IUCN 第 4 回世界自然保護会議の報告会」（2008 年 11 月 25 日 50 名参加）や「IUCN セミナー 遺伝資源から得られる利益の配分（ABS）」（2009 年 1 月 30 日 45 名参加）の共催や、NGO が開催する各種勉強会への情報提供等を通じて、生物多様性国家戦略や生物多様性条約の重要性を訴え、関心を高めるとともに、国内の関係 NGO との協力関係を築いた。生物多様性条約締約国会議に向けて「生物多様性条約市民ネットワーク」の設立と運営に参画した。

##### ・ 生物多様性条約等に係る情報収集・基礎資料作成（環境省請負）

「生物多様性条約第 9 回締約国会議」「IUCN 第 4 回世界自然保護会議」への出席等により、生物多様性保全に関する国際情報を収集し、報告書を作成した。

### (2) 研究系プログラム

#### 植物群落 RDB モニタリング

##### ・ 海岸植物群落モニタリング

4 年間にわたり実施した市民参加の海岸植物群落調査（37 道府県 1,308 件の海岸）のデータの集計・解析を行い、日本の海岸とそこに生育する植物群落の実態を明らかにした。その結果をとりまとめた「植物群落からみた海岸白書」を発行、配布し、自然の海岸の重要性和保全をアピールした。

## 里やま保全研究

- ・生態系総合モニタリング調査（(株)NTT データの協賛事業）  
全国の自然観察会のデータを市民参加型調査のバックデータとして自然保護に活用するために、生きものの観察記録を登録すると、簡単に検索や分布図を作成できる専用 web サイト「生きもの情報館」を(株)NTT データの協賛を得て構築し、3月に公開した。
- ・モニタリングサイト 1000 里地調査（重要生態系監視地域モニタリング推進事業）  
(環境省生物多様性センター請負)  
2005 年度から徐々に調査を開始しているコアサイトに加え、一般サイトでの調査が新たに始まり、全国 197 ヶ所での市民主体によるモニタリング調査を開始した。これに合わせて調査マニュアルの整備・改訂や調査速報の定期発行（年 2 回）を行うとともに、全国 10 ヶ所で事業の説明会と調査講習会を開催して約 600 人の方が受講した。また、今後蓄積される膨大なデータから里やまの生物多様性の変化を迅速に評価できるよう、「指標」を用いた解析方法を開発した。

## ふれあい研究

- ・市民参加の「ふれあい調査」手法の開発とモデル地での実践（三井物産環境基金助成）  
市民参加のふれあい調査手法をとりまとめ、ハンドブック原稿を作成した。  
また、綾の照葉樹林プロジェクトにおいて、確立した手法を使い、綾町上畑地区で地域住民と共にふれあい調査を実施。調査結果から「ふれあいマップ」を作成し、照葉樹林の保全・復元と地域づくりへの活用を図った。

## 生態系管理手法研究

- ・屋久島世界遺産地域における生態系の動態把握と保全管理手法に関する調査（環境省九州地方環境事務所委託）  
屋久島の世界遺産地域において気象観測、植生、動物（ヤクシカ・哺乳類相・昆虫類相）、地形・地質に関する調査を実施した。シカの全島分布と植生、地形地質、土地利用、集落との関係など各調査項目間の統合的な解析を実施した。3年間の結果は屋久島生態系保全管理のための提言としてとりまとめた。
- ・綾の照葉樹林プロジェクトエリアにおける照葉樹林（町有林）の保護復元に伴う基礎調査委託業務（綾町委託）  
綾の照葉樹林プロジェクトエリア内にある3箇所の町有林（大口、小屋ヶ谷、百ヶ倉）において復元手法を検討するための林床植生調査を実施した。林床植生の状態や各町有林の自然林からの距離などのから復元方法に関して提案をおこない綾町における復元計画策定のための基礎資料を提供した。
- ・照葉樹林への保護・復元に関する情報収集・活用設計調査委託事業（九州森林管理局委託）  
綾の照葉樹林プロジェクトエリアにおいて実施された既往研究や報告書の内容をとりまとめ林小班ごとの復元目標や配慮すべき要因についてとりまとめた。また、エリア内で蓄積される調査データや基盤データを登録し、関係者や一般の市民が活用できるデータベース及び情報共有システムの企画案を作成した。
- ・人工林と二次林における市民参加の林床調査の実践（三井物産環境基金助成）  
復元のための林床植生調査マニュアル（案）を作成し、それを使って綾町の町有林において市民参加の林床植生調査を実施した。調査の結果は上記の町有林調査に活用した。

### SISPA・戦略的保全地域情報システムの構築（運営基盤整備積立金活用）

植物群落レッドデータを GIS データ化して、保護地域とのギャップ分析を行い、保護対策が必要な重要な自然、場所を抽出した。この結果に基づき、保護地域施策への提言案を作成した。また、これまでに構築したデータベースシステムに加え、SISPA での解析結果を掲載し誰でも閲覧することができるウェブサイトを作成。その試験運用を行い、次年度の公開に向けた準備を進めた。

### 研究・活動支援

#### ・プロ・ナトゥーラ・ファンド助成（(財)自然保護助成基金との共同事業）

平成 20 年度（第 19 期）助成の募集・審査を行い、28 件の国内外の研究・活動グループおよび個人に計 2,612 万円の資金支援を行った（16 頁・別表 5）。

平成 18 年度（第 17 期）助成の成果報告書を作成し、平成 19 年度（第 18 期）助成の成果報告会を開催（12/6、東京表参道・子どもの城、約 100 名参加）するとともに、専用 web サイトに助成成果の報告を第 10 期まで追加公開した。

## 3．教育普及事業

### NACS-J 自然観察指導員の養成

#### ・30 周年記念企画（事業実施積立金活用）

会報 5/6 月号での「自然観察指導員活動実践例 30」特集、第 8 回自然観察指導員全国大会「指導員の今までとこれからを考える」の開催（3/20,21,22、東京大学弥生講堂、のべ約 400 名参加）を通じて、地域の生物多様性保全の担い手としてあるべき指導員の役割・行動の共有と普及を図った。

各地の指導員が活動の内容やノウハウを共有・活用しあえる場をつくり、それらの経験や情報を自然保護により生かしていくために、指導員活動情報の自己登録 web システムの構築を進めた。

#### ・NACS-J 自然観察指導員講習会（運営基盤整備積立金活用）

指導員連絡会・自治体・学校・企業との共催により、15 回の講習会を開催し、自然観察会活動のあり方と指導員の役割に関する基礎情報の普及を図った（17 頁・別表 6、今年度登録者 756 名、初回以降総登録者 24,425 名）

講師会議の開催等を通じて、講習会講師間での情報の共有・交換や講習会プログラムの改良を行った。

#### ・自然観察指導員活動のフォローアップ

自治体との共催による研修会の開催（17 頁・別表 7）、連絡会等指導員グループ主催の研修会への講師派遣、総会や地域ブロック会議への出席、メールマガジン「しどういん徒然草」の配信等を通じて、指導員活動のフォローアップを図った。

### 環境教育一般

#### ・自然しらべ 2008

毎年テーマ（観察対象）を 1 つ選び、全国で同時期に同じものをみる市民参加型自然観察プログラムとして、「自然しらべ 2008 夏休み カマキリをさがせ！」をテーマに、身の

まわりの生物多様性に気づく機会を企画・実施した。

(通算 13 回目、主催：NACS-J・読売ウイークリー・NTT レゾナント(キッズ goo)、学術協力：梶真史(厚木市郷土資料館学芸員) 監修：岡田正哉(昆虫研究會・なごや代表)・浜口哲一(神奈川大学理学部生物科学科特任教授) 協賛：サニクリーン・西日本旅客鉄道・明治乳業・日本コカ・コーラ・ヴェレダジャパン、誌面協賛：9 誌、アシスタントスタッフ：損保ジャパン派遣インターン生を含む 4 名、実施期間：7/1～10/31、参加者数：のべ 2,420 名、観察情報：1,078 件)

・外部事業への参加・支援機会を活用した普及啓発

「環境教育関東ミーティング 2008AKAYA」を共催し、実行委員会の一員として参画し、「多様な自然の気づき方、伝え方、エコツーリズムへのつなげ方」をテーマに開催。環境教育活動を生物多様性保全と持続的な地域づくりにどうつなげていけばよいかについて、先行事例の紹介や議論・交流を行った(11/28、29、30、群馬県みなかみ町旧・新治小学校、約 140 名参加)

催事パネラー・学習会講師・観察会リーダー・原稿執筆・取材対応等への職員・講師等の派遣、人材の紹介、後援等の協力を行った(14 頁・別表 4)

#### 個人会員の拡大

・文字媒体を使った入会勧誘(運営基盤整備積立金活用)

入会パンフレットおよび NACS-J の活動紹介パネルのリニューアルを行った。

会員・自然観察指導員を中心に、入会パンフレットの配布や会員証に添えたメッセージカードの活用等、会員拡大への協力を呼びかけた(協力者 473 名)

各種自然系施設へのパンフレット常設協力依頼(736 ヶ所)、退会者への再入会案内 DM の実施、「自然しらべ」の参加者・問合者等への入会案内 DM の実施等を通じて入会を呼びかけた。

## 4. 編集事業

#### 会報『自然保護』の発行

年 6 回(第 503 号～第 508 号) 各約 18,000 部を編集・製作した。各部と連携し「生物多様性」を中心に特集を制作した。

[各号特集]・自然観察指導員 活動実践例 30(第 503 号、5/6 月号)

・健全な事業が自然環境を維持する(第 504 号、7/8 月号)

・今から知っておきたい! 生物多様性条約&COP10(第 505 号、9/10 月号)

・沖縄の海は今(第 506 号、11/12 月号)

・生物多様性保全に役立つエコツアー(第 507 号、1/2 月号)

・地域を元気にする里やまづくり(第 508 号、3/4 月号)

#### NACS-J ホームページの運営(運営基盤整備積立金活用)

2007 年度に開催した Web ワーキング会議の検討を踏まえ、サイト構成を抜本的に見直し、閲覧者の目的別の誘導と、更新の簡便化と即応性を向上させるためのリニューアル作業を開始。外注化できる作業の整理を行い、内部作業は編集を中心とする体制の構築を進めた。

現行サイトのアクセス（PV）が前年度に比べ 15%ほど減少。自然しらべを中心に、トップページも含め全体にわたり減少傾向がある。検索対策、NACS-JWeb サイトのPRの重要性を確認し、活動の要約、わかりやすいタイトル編集、図示や写真を多用し、活動参加や支援につなげるためのサイトづくりのため構成編集を継続した。（全ページアクセス年間計 1,330,000PV / 日平均 3,644PV / トップページアクセス日平均 441PV）

## 5．広報企画事業

新聞広告、学生セミナー、セミナー総まとめの資料化（報告書）等を計画したが、企業協賛に至らず、実施できなかった。

### ・企業人セミナー2008

企業による生物多様性保全活動を働きかけるため、「リアルネイチャーセミナー・企業人セミナー2008」を実施した。（10/8、10/15、10/24 会場・第一三共会議室、地球環境パートナーシップオフィス（EPO））

## 6．会員管理・サービス事業

### 会員管理

#### ・会員数の維持・拡大

個人会員の会費自動引落の利用促進や賛助会員企業への訪問等により、会員登録の継続を呼びかけ、個人会員数の維持と賛助会員数の拡大を図った。団体会員は、市町村合併等に伴い、地方自治体を中心に会員数の減少傾向が続いている。

#### ・一般寄付の拡大

個人からの募金寄付や遺贈、企業からの商品販売・催事等を通じた寄付キャンペーン企画の受け入れ等により、一般寄付の拡大を図った。

### 会員サービス

主催催事での直接販売や合資会社 狼森(おいのもり)への委託による通信販売を通じて、オリジナル刊行物や会報『自然保護』バックナンバーを頒布した。

## 7．顕彰・基盤整備事業

### 顕彰

第8回日本自然保護協会沼田眞賞の推薦募集・選考を行ったが、該当者なしとした。

### 基盤整備

#### ・労務・人事諸規程の改定（運営基盤整備積立金活用）

一昨年度の新管理職制度・事務局内組織の見直しに伴い昨年度に引き続き規程の改訂・制定を行った。今年度は、定時職員就業規則・賞罰規程・職員退職金支給規程の改訂のほか、契約職員に対する退職慰労金の取り扱い内規・常勤役員退任慰労金規程の施行を行ったほか、管理職研修を実施した。

以上

### 別表 1 . 意見書・要望書等の提出 (協会代表者名で提出、カッコ内は提出日・提出先)

- ・諫早湾干拓事業「中長期開門調査」の早期実施と有明海再生に向けた意見書(7/4、総理大臣、農林水産大臣、環境大臣)
- ・天塩川水系サンルダム計画地における絶滅危惧種カワシンジュガイ類の保全を配慮せずに開始した魚道試験に対する意見書(9/10、国土交通大臣、環境大臣)

### 別表 2 . 声明・パブリックコメント等の提出 (主に業務担当者名で提出、カッコ内は提出日・提出先)

- ・「生物多様性基本法」制定に際してのコメント(5/22、記者クラブ等)
- ・農林水産大臣による地方裁所判決の不服控訴に際して「諫早湾干拓事業潮受堤防排水門の開門を求める声明」(7/11、記者クラブ等)
- ・蒲島郁夫熊本県知事の川辺川ダム建設計画の白紙撤回の表明への緊急コメント(9/11、記者クラブ等)
- ・国有林野の管理経営に関する基本計画(案)についての意見(12/4、林野庁)
- ・自然公園法の施行状況等を踏まえた今後講ずべき必要な措置について(報告書案)に関する意見(1/18、環境省)
- ・生物多様性条約第4回国別報告書案に対する意見(3/6、環境省自然環境計画課)

### 別表 3 . 委員の派遣 (カッコ内は要請主体)

- ・風力発電施設地適正業務検討会(環境省、新規)
- ・国立公園指定動物検討会(環境省、継続)
- ・温暖化影響情報集約型 CO2 削減行動促進事業「いきものみつけ」検討会(環境省生物多様性センター)
- ・会津駒ヶ岳・帝釈山・田代山景観保全管理方針策定検討会(環境省関東地方環境事務所、新規)
- ・尾瀬国立公園協議会(環境省関東地方環境事務所、継続)
- ・日光国立公園尾瀬地域・至仏山保全対策会議(尾瀬保護財団、継続)
- ・中城港湾泡瀬地区環境監視委員会(内閣府沖縄総合事務局、継続)
- ・森林における生物多様性保全の推進方策検討会(林野庁、新規)
- ・平成 20 年度森林・林業基本対策推進事業「里山林再生戦略の確立に向けた基礎調査」に係る調査研究委員会(林野庁)
- ・保護林管理強化対策事業検討委員会(林野庁北海道森林管理局、継続)
- ・生物多様性検討委員会(林野庁北海道森林管理局、継続)
- ・大雪・日高森林生態系保護地域拡大原案作成委員会(林野庁北海道森林管理局)
- ・にしんの森再生プロジェクト委員会(林野庁北海道森林管理局、継続)
- ・十勝川源流部更生プロジェクト委員会(林野庁北海道森林管理局、継続)
- ・富士山、丹沢緑の回廊モニタリング調査検討委員会(林野庁関東森林管理局、継続)
- ・希少野生生物の保護と森林施業等との調整に関する常設検討委員会(林野庁関東森林管理局、継続)
- ・小笠原諸島森林生態系保護地域保全管理委員会アドバイザー会議(林野庁関東森林管理局、継続)
- ・中部森林生命圏生物多様性マップの作成に関する調査検討委員会(林野庁中部森林管理局)
- ・西表森林生態系保護地域設定委員会(林野庁九州森林管理局)
- ・奄美群島森林生態系保護地域設定委員会(林野庁九州森林管理局、継続)
- ・沖縄本島北部国有林の取り扱いに関する検討委員会(林野庁九州森林管理局、継続)
- ・猪八重照葉樹林の今後の保護・利用に関する意見交換会(宮崎南部森林管理署)

- ・小笠原兄島ノヤギ排除検討委員会（東京都・自然環境研究センター）
- ・野生生物保護対策検討会アカガシラカラスバト保護増殖分科会（環境省、新規）
- ・東京都シカ保護管理計画検討委員（東京都、新規）
- ・千葉県特定外来生物（アライグマ）対策検討会（千葉県、継続）
- ・企業の生物多様性保全に関する活動の評価基準検討委員会（国際環境 NGO FoE Japan）
- ・「第 4 回わくわくアートコンテスト」審査員（高尾の森わくわくビレッジ）

#### 別表 4 . 催事等への後援・協力・職員派遣等 （カッコ内は主催者・開催日）

- ・信州にふさわしい自然エネルギーは何か！（シンポジウム実行委員会、4/12）
- ・第 3 回表浜エクスカーショーン、第 5 回表浜シンポジウム（表浜ネットワーク、4/26～4/27）
- ・干潟・湿地を守る日 2008（日本湿地ネットワーク、4月～5月）
- ・第 82 回 国展（国画会、5/1～5/12）
- ・第 3 回全国チョウ類保全シンポジウム（日本チョウ類保全協会、5/4～5）
- ・東京バードフェスティバル 2008（同実行委員会、5/17～18）
- ・2008 年度 KiNOA 定例会（KiNOA、5/24～25、8/2～3、9/27～28、2/7～8、3/7～8）
- ・外来生物分布拡大予報研究会（6/4）
- ・水・いきものがたり運動（三井住友海上火災保険株式会社、6月）
- ・あいちの自然観察 2008（名古屋自然観察会、6/14）
- ・中・四国環境教育ミーティング（同実行委員会、6/20～22）
- ・COP10 に向けて 連続更改シンポジウム “生物多様性を考える”（生物多様性ジャパン、6/28～7/5）
- ・荒瀬ダムを考える学習会（自然観察指導員熊本連絡会、7/20）
- ・三番瀬で生きものをみつけよう！（生きものを見つける実行委員会、7/21）
- ・平成 20 年度夏休み子供自然教室（利根沼田自然を愛する会、7/27）
- ・吉野川汽水域シンポジウム（とくしま自然観察の会、8/3）
- ・ヒメボタルサミット in 愛知（同実行委員会、8/17）
- ・第 48 回社会教育研究全国集会（同実行委員会、8/23～25）
- ・自然公園大会「エコツーリズムシンポジウム」（環境省、8/30）
- ・海勢頭豊まブイぐみコンサート（ジュゴン保護キャンペーンセンター、9/17、9/19）
- ・草原再生セミナー（森林塾青水、9/20）
- ・第 26 回日本環境会議水島大会（日本環境会議（JEC）、9/20～21）
- ・第 15 回山階芳麿賞贈呈式・受賞記念講演（山階鳥類研究所、9/23）
- ・JICA 集団研修「生物多様性情報システム」（国際協力機構、10/3）
- ・やまぐちの天然記念物 鳥とともに生きる（長島の自然を守る会、10/13）
- ・JICA 国別研修・インドネシア「国立公園管理施策」（独立行政法人国際協力機構、10/15）
- ・神奈川ウオーター・ネットワーク 第 2 回シンポジウム（NPO 法人神奈川ウオーター・ネットワーク、10/19）
- ・茅刈りコンテスト&講習会（森林塾青水、10/25～26）
- ・豊かな自然との共存をめざして...これからの野生鳥獣対策を考える（生物多様性保全ネットワーク、11/2～3）
- ・第 9 回ライチョウ会議新潟大会（同実行委員会、11/15～16）

- ・2008年 IUCN 勧告「2010年国連国際生物多様性におけるジュゴン保護の推進」の履行を求める請願署名への賛同団体（ジュゴン保護キャンペーンセンター、2008/10/末～2009/5/末）
- ・「梧堂に学ぶ」第1回中西梧堂研究大会（中西梧堂研究会、11/15）
- ・かんさい自然フェスタ2008（NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会・自然観察指導員近畿圏交流会、11/15-16）
- ・シンポジウム これでもいいのか!? 泡瀬干潟埋立!!（泡瀬干潟を守る連絡会、11/23）
- ・第4回世界自然保護会議 参加報告会（生物多様性 JAPAN、11/25）
- ・「暮らしの中からエコシフト！」講座（ロハスライフ事務局、11/25）
- ・第4回世界自然保護会議 参加報告会（生物多様性 JAPAN、11/25）
- ・『昆虫記』刊行100年記念日仏共同企画「ファールブルにまなぶ」（ファールブル100年展日本側実行委員会、～11/30）
- ・全国エコツーリズム大会 in 小笠原（小笠原諸島返還40周年実行委員会・12/7～12/9）
- ・「環境」就職・進路相談会 2008 東京（全国青年環境連盟（エコ・リーグ）12/13）
- ・大地の川を目指して みんなの理想の川とは？釜無川フォーラム2009（まちづくり時間塾、2/7-8）
- ・「普及事業サイエンスサタデー2月」および、企画展「ぐんまの自然」（群馬県立自然史博物館、2/7-5/6）
- ・第8回草津市子ども環境会議（同実行委員会、2/14）
- ・第8回自然環境シンポジウム「変わりゆく野生動物たちと私たちの幸せな共存」（酒匂川水系の環境を考える会、2/15）
- ・公開シンポジウム 首都圏の奇跡の谷戸 三浦市三戸「北川」の湿地を残したい！（三浦・三戸自然環境保全連絡会、2/21）
- ・360°三番瀬の響きコンサート（自然と文化研究会 theかもめ、2/22）
- ・小中学生対象の環境教育副読本 高学年分野の「身のまわりの自然を調べよう」コーナー（福井県安全環境部自然保護課、3月）
- ・アース・ビジョン第17回地球環境映像祭（アース・ビジョン組織委員会事務局、3/6-8）
- ・シンポジウム「大浦湾のさまざまな生き物たち」（沖縄リーフチェック研究会、3/7）
- ・2009九州環境教育ミーティング in 九住高原（同実行委員会、3/7-8）
- ・「びわ湖の森のいきもの」シンポジウム（同実行委員会、3/14）
- ・生物多様性シンポジウム「越後平野の水辺の未来を描く」（生物多様性保全ネットワーク新潟、3/15）
- ・シンポジウム「第3回桂川生物多様性フォーラム どうする桂川、どうなる桂川、淀川から学ぼう、川から都市の自然再生を」（桂川生物保全ネットワーク、3/15）
- ・NPO法人日本エコツーリズム協会設立10周年記念大会「エコツーリズムは地球を救う」（日本エコツーリズム協会、3/15-16）
- ・緊急シンポジウム「救え、沖縄泡瀬干潟とサンゴの海」（泡瀬干潟を守る東京連絡会、3/17）
- ・地球だい好き 環境キャンペーン（NHK、共同通信社）
- ・第25回自然は友だち 私の自然観察路コンクール（国立公園協会）
- ・彩の国環境地図作品展（同実行委員会）
- ・第11回日本水大賞（日本河川協会内同委員会）
- ・「環境フォト&環境川柳コンテスト」（株式会社NTTデータ）

別表5 . プロ・ナトゥーラ・ファンド 第19期助成先

(万円)

テーマ/国内グループ名・海外申請者名	助成額
<b>(1) 国内研究助成</b>	
マイクロサテライトDNA解析による希少種イトウの遺伝的構造の解明および遺伝的指標を用いた保全策の提言	109
沖縄島で再発見された絶滅危惧種オキナワトゲネズミの保全のための調査	150
国内希少種のヤマネコ類と人間の共存にむけた基礎研究 - 人間活動へのヤマネコの生態学的反応 -	137
霧ヶ峰におけるイタドリ緑化導入個体による地域個体群の遺伝的影響の分析	108
三浦半島周辺のカムリウミスズメ保護のための調査	100
GISを用いたツキノワグマにおける保護管理対策の評価	81
北海道に分布する希少種ノサップマルハナバチにおける侵入外来種の影響と遺伝的多様性に関する研究	105
岩手県における水禽および猛禽類の鉛中毒の実態調査	70
<b>(2) 国内活動助成</b>	
市民参加による、ジュゴン生息域の海草も場のモニタリング調査	51
長野県安曇野のオオルリシジミ自然個体群の回復のための保護活動	62
研究成果「台風による樹木倒木をとおして明らかになった軽井沢の本来の自然」の普及活動(出版)	24
香川県産ニッポンバラタナゴの系統保存のための保護池造成(継続)	82
日本の重要野鳥生息地(IBA)普及のための英文ホームページの作成	105
長島(山口県熊毛郡上関町)の貴重な自然環境及び生態系についてのガイドブックの作成	60
小笠原の固有トンボ類再生・保全のための活動	105
北海道淡水魚保護フォーラム「サクラマス再生をめざして」	42
霧ヶ峰における草原保全活動推進のための啓蒙資料作成と活用	80
豊かな自然との共存をめざしてこれからの野生鳥獣対策を考える	32
地域連携による生態学教育プログラム「人と自然と生態学」	50
砂浜侵食が進む宮崎県住吉・佐土原海岸の市民調査をもとにした行政への侵食対策の働きかけ	50
沖縄やんばるにおける森林整備事業の実態調査にもとづく自然保護の普及・啓発	80
<b>(3) 国内長期事業助成</b>	
兵庫県但馬地方に生息するニホンザル地域個体群の絶滅防止と軋轢解消	200
ニホンジカによる過採食が芦生の冷温帯天然林の生物多様性と生態系機能に及ぼす影響の解明	200
<b>(4) 海外助成</b>	
ロシア日本海沿岸部におけるクロツラヘラサギ個体群の調査	120
マレーシア・サバ州、クリアス半島のテングザルの保全(継続)	80
ロシアのムラヴィオフカ自然保護区における水環境の変化や気候変動がツル類、コウノトリ、並びに湿原生態系におよぼす影響について	100
マレーグマとその森林生息環境の保全に関する東カリマンタンでの地域社会への普及啓発活動	120
アルゼンチン国バタゴニアカイツブリの繁殖地における個体数と繁殖湖沼の現状調査	109
計 28 件	2,612

別表6 . NACS-J 自然観察指導員講習会

NO	開催日	開催地	会場	共催団体	登録者数
411	5/9-11	栃木県	鹿沼市自然体験交流センター	栃木県自然観察指導員連絡協議会	50
412	5/30-6/1	兵庫県	兵庫県立淡路景観園芸学校	兵庫県立淡路景観園芸学校	41
413	6/13-15	東京都	八王子セミナーハウス	帝人株式会社	60
414	6/27-29	新潟県	国立妙高青少年自然の家	新潟県自然観察指導員の会	64
415	7/11-13	北海道	酪農学園大学	酪農学園大学	43
416	7/19-21	神奈川県	富士ゼロックス株式会社 塚原研修所	富士ゼロックス株式会社	60
417	8/29-31	福島県	国立磐梯青少年交流の家	福島県自然保護協会	53
418	9/5-7	島根県	サン・レイク(県立青少年の家)	島根県	49
419	9/13-15	青森県	岩木青少年スポーツセンター	青森県自然観察指導員連絡会(ウォッチング青森)	33
420	9/20-22	静岡県	日本 YMCA 同盟国際青少年センター-東山荘・東芝の森	株式会社 東芝	62
421	10/3-5	神奈川県	神奈川県立足柄ふれあいの村	神奈川県自然観察指導員連絡会(グリーントフ)	42
422	10/11-13	山梨県	山梨県本栖湖青少年スポーツセンター	自然観察指導員山梨県連絡会	27
423	10/24-26	千葉県	国民宿舎清和・清和県民の森	千葉県環境生活部自然保護課	61
424	11/1-3	埼玉県	埼玉県自然学習センター・北本自然観察公園	埼玉県環境部みどり自然課	61
425	11/22-24	佐賀県	波戸岬少年自然の家	佐賀県くらし環境本部有明海再生・自然環境課	50

別表7 . 自然観察指導員フォローアップ研修会

NO	開催日	テーマ	会場	共催団体	参加者数
145	9/13-14	リスクマネジメント研修	愛知・犬山国際ユースホテル	愛知県	25